



史跡

70. 高波縄文遺跡

こうなみじょうもんいせき

■指定年月日 昭和37年2月13日(1962)

■指定面積 約5,000㎡

■所在地 三崎町高波

■所有者 個人

本史跡は、紀ノ川河口に近い左岸の微高地にあり、高波フルヤ遺跡の名称で知られている。縄文時代から奈良時代にかけての集落遺跡であるが、特に珠洲での代表的な縄文時代の遺跡として著名である。

昭和27年に九学会が試掘調査をおこない、学会で注目を集めることとなった。ついで開田計画が持ち上がり、昭和34・35年に市教育委員会によって確認調査が行われ、計画変更により遺跡は全面的に保存された。

調査では、縄文時代前期末から後期中葉にかけての土器が出土している。石斧(石オノ)や石鏃(石の矢じり)、磨石や石皿などの石器のほか、イノシ

シの歯・骨片、ヤマトシジミ・サザエ・アサリなどの貝類が出土し、縄文人の生活の一端を垣間見ることができる。炉のような石組みの一部も見つかっており、住居跡や貝塚が埋蔵されている可能性も十分ある。

遺跡の大部分は未発掘なので、まだまだ不明な点が多くあり、今後、詳細な調査が待たれる。